

タイトル		The Heart and the Bottle				
著者（文・絵）		Oliver Jeffers				
出版年		2010	出版社	Philomel Books		
翻訳版		『こころをビンにとじこめて』 三辺律子訳、あすなろ書房、2010 年				
総語数	278 語	ページ数	32 ページ	YL レベル	1.7	
あらすじ						
自然界の草花、生き物、星々に好奇心いっぱいの女の子。いつもおじいさんと一緒に星空を眺め、海辺で遊び、わくわくする発見に満ちた日々を過ごしていました。大切なおじいさんがいなくなるまでは。 おじいさんがいなくなった悲しみをひとまず空き瓶に閉じ込めて、その瓶を首に下げておくことにしました。そうすると、悲しみから距離を置くことができる気がしたのです。でも、その後の世界は以前のように素敵な驚きに満ち溢れたものではありませんでした。何より首に下げた瓶は重くて、どんどん厄介になりました。それでも「心」を瓶に入れておけば安全だったのです。 月日がたち、少女は大人になりました。ある日のこと、おじいさんと遊んだ海辺で、かつての彼女のような好奇心いっぱいの小さな女の子に会いました。その子の問いに答えたくても、心を瓶から取り出さなくては答えられません。でも、どんなに取り出そうとしても上手く行きません。いろいろな方法で試しても駄目でした。 そんな日々が続いたある日、「あの子なら出来るかも」と、あの浜に走ります。すると、その子が...						
紹介						
ぱっと目を引く明るく黄色い表紙を開くと、暗い夜空、海、真夜中の寝室の挿絵が対比的で印象に残ります。しかし、これらの挿絵は冷たく突き放す暗色ではなく、深く温かみのある色あいです。何回か読み返すと、余白なく描かれたページと背景に大きな余白があるページが混在していることに気がつきます。作者のジェファーズは色や絵を巧みに使って、主人公の心理状態を表現することに成功しています。中間色の色使いとちょっとユーモラスな人物のイラストを目にし、読み手は自然に主人公の気持ちに寄り添うことが出来ます。 私がこの本に出会ったのは、子ども向けグリーフ・ケア（大切な人との死別を体験し困難な状態にある人に寄り添い、支援すること）の絵本を探しているときでした。この物語では、少女のおじいさんが亡くなったことが「誰も座っていない椅子」の絵で暗示されています。また、作中の「悲しい別れで傷ついた心を瓶に閉じ込めておく」という比喻も幼い子どもには理解できないかもしれません。むしろ大人向けの絵本と言えまし						

よう。しかし、上述のとおり、色やデザインの力をよく知る作者の挿絵を見て、子どもたちも大切な何かを感じとることができるでしょう。

この絵本のもう一つの魅力は、一冊の本にさまざまな挿絵が重層的に挿入されていることです。表紙と裏表紙、表紙の裏（複数のおじいさんと孫娘の挿絵）、裏表紙の裏（心臓と血管の挿絵）が何を表しているのか、物語との関連性があるのかを考えを巡らせ、自由に話し合うことができます。どうぞ表紙カバーを外すことを忘れずに。カバーに隠れた絵本本体の表紙と裏表紙には、絵本の挿絵と異なるスタイルで描かれた森羅万象の図が描かれています。小さなディティールも含め、挿絵と対話しながら読んでみるとよいでしょう。

指導ポイント・授業活用例・学生の声など

【授業活用例】

Lesson 1 （約 60 分）

- ① タイトル *The Heart and the Bottle* を黒板等を書いて、このタイトルが何を喚起させるかを問う。
- ② 表紙を見せる。グループごとに、このタイトルと挿絵を基に自由に物語をつくることを伝える。
- ③ グループごとに、順番に英語で 1 人 1~2 文を書くことを繰り返しながらオリジナルの物語をつくる。(10 分)
- ④ グループのメンバー 1 人が読み手となって、作った物語を読む。他のメンバーは読み語りを聞いた後、必要に応じて文法や表現の直しをして完成させる。(10 分)
- ⑤ 各グループの物語をクラスに紹介する。(10~15 分、グループ数による)
- ⑥ 各グループにオリヴァー・ジェファーズの *The Heart and the Bottle* を配る。グループごとに音読し、自分たちの物語と比較する。さらにストーリーラインを確認し自由に解釈を試みる。(10~15 分)
- ⑦ 教員から、色やデザインに関することを疑問の形で提示する。その後、各グループで気になるディティールを解釈しあう。(10 分)
- ⑧ 授業後の課題として、感想文を書く。

※ 授業時間により①~⑥又は、⑥~⑦だけを行うことも可能。

Extra Activity

- ① 物語冒頭の文 “Once there was a girl, much like any other, whose head was filled with all the curiosities of the world”, “With thoughts of the stars”, “With wonder at the sea”を紹介する。
- ② ある人物を念頭に語句を入れ替えて書く。

(例) “Once there was a boy, much like any other, whose head was filled with all the

curiosities of the world, with thoughts of the fish, with wonder at the sea and the aquarium.

You know who I'm talking about? It's Sakana-kun.

- ③ 書いた文を読み上げて、誰のことか説明する。あるいは、誰のことか名を伏せてクイズ形式にしてみてもよいでしょう。

関連作品・参考 URL

オリヴァー・ジェファーズ (1977~)は北アイルランドのベルファスト生まれ、ニューヨーク在住の作家&イラストレーターです。以下の代表作は近年日本でも注目されています。

- Oliver Jeffers. (2004). *How to Catch a Star*. New York: HarperCollins Children's Books. (『みつけたよ、ぼくだけのほし』 三辺律子訳、ソニーマガジンス、2004 年)
- Oliver Jeffers. (2006). *Lost and Found*. New York: HarperCollins Children's Books. (『まいごのペンギン』 三辺律子訳、ソニーマガジンス、2006 年)

以下のサイトも参考にしてください。

- ジェファーズによる絵本読者のためのオリジナル・ホームページ “Oliver Jeffers’ World” <http://www.oliverjeffersworld.com/#video>
- Harper Collins Publishers による作家情報ページ “Oliver Jeffers Books & Biography” <https://www.harpercollins.co.uk/author/cr-100742/oliver-jeffers/>

(文責：草薙優加)